

佐賀大学日本語・日本文化研修留学生修了レポート

# 「ラオス人の日本語学習者における フィラーの使い方」

ウドムスック・スリントーン

(ラオス国立大学)

指導教員：中山 亜紀子

2017年8月

## 「ラオス人の日本語学習者におけるフィラーの使い方」

### 1. はじめに

フィラーは、どの言語にも存在するが、習得が難しい。日本語ではフィラーが特別な意味を持つ場合があり、筆者も相手の意向を誤解したことがある。日本語らしい日本語を使えるようになるためには、フィラーも大切なものの一つであると考えようになった。定延（2005）は、日本語学習者にとって気持ちのこもった音声コミュニケーションが重要だと述べ、続けて、たしかに、教室外でも日本人の人々と付き合い、いろいろなメディアを観ているうちに、気持ちに応じた日本語のしゃべり方が自然と身についた学習者は結構存在するが、「そのような学習者は少数にすぎない（p. 4）」ことを指摘している。そして、学習者が自然なしゃべり方ができるようになるためには、教室外だけでなく、教室の内で学習することも大切だろうと述べている。

特に、外国で日本語を学ぶ学習者にとっては、日本人と付き合う機会が少ないため、教室外で習得できる可能性はほとんどない。教室の中でフィラーを教えるためには、まず学習者のフィラーの使い方の特徴を知らなくてはならないのではないかと考える。

筆者は、ラオス人日本語学習者のフィラーの使い方の特徴は、どのようになっているかを知りたい。この点について明らかにするために、本研究ではラオス人日本語学習者にインタビューし、インタビューデータを分析する。

まず日本語のフィラーについて調べ、次にラオス人の日本語学習者のフィラーの使い方の特徴を明らかにする。その方法として、ラオス人同士のロールプレイを日本人同士のロールプレイと比べる。

### 2. フィラーの定義・機能

#### 2. 1 フィラーの定義

フィラーとは、「あの一」「えっと」などの言葉を指す。しかしながら、フィラーの細かい定義は、諸家によって異なる。定延（2013）は、フィラーが「感動詞」「談話標識」「談話マーカ」「つなぎ語」「場つなぎ言葉」「間つなぎ語」などと重なるか否か、あるいは一致するか否かは研究者間で見解が一致していないと述べている（P. 10）。

この小論では、中島（2011）を用いて、フィラーとは、「それを取り去っても伝達する文・談話の命題内容に変化を及ぼさないもの」（P. 179）と定義する。

#### 2. 2 フィラーの機能

次に、フィラーには、どんな機能があるのだろうか。中島（2011）では、先行研究を詳しく紹介している。ここでは、中島に依拠しながら、フィラーにどのような機能があるか、紹介しよう。

塩沢（1979）では、“Hesitation”の役割について「沈黙を避ける」働きの他に「話し手の交替に使われる時は相手の注意を引き、自分が話し始めることを認めてもらう、答える内容を考えている間を補う、文頭では文の調子を整える、文中では次の助詞や助動詞を選択している間に使う、ちゅうちょを示す」などを挙げ、文頭か文中か使われる位置によって、いくつかの異なる働きをすることが指摘されている。

小出（1983）では、「エー」「アー」「アノー」を「言いよどみ」とし、「その言葉の意味から言えば、話し手がためらい、そのために音の流れが停滞し、淀むこと」であるという。言いよどみの役割については「話し手の心的な態度を表す、語の速度を下げ、話の丁寧度を増加させる、話を和らげる」がある。

野村（1996）では、フィラーには機能上対人的な意味やテキスト構成的な意味に関わるものがあるとして、①純粹に対人的なものに呼びかけの語、注意を喚起する小群（「ほら」「ね」など）、②対人的かつテキスト構成的なものに発話環境をマークするフィラー（「あ」「ね」など）と換言・修正をマークするフィラー（「あの一」など）、③純粹にテキスト構成的なものに話し手の話しやすさのためのフィラー（「えーと」など）があると、3点挙げている。

田窪・金水（1997）では、「え、ああ、へえ、ふうん、ああ、ま、あの、ええと、その」類のことは心的な過程が表情として声に現れたものとして、入出力制御系と言いよどみ系に分け、前者を応答1（ああ、はい、はあ、ええ、うん、ふん）、応答2（いいえ、いえ、いいや、いや、いやいや）、意外・驚き1（は、はあ、え、ええ、へえ、ふん、えっ、はっ、ふんっ）、意外・驚き2（あれ、あら、おや）、意外・驚き3（おお、わお、おっ、わっ）、発言・思いだし（あ、あっ、はっ）、気付かせ・思い出させ（ほら、そら、それ）、評価中（ふうん、へえ、ほお）、迷い（ううん）、嘆息（あ（は）あ、お（ほ）お、う（ふ）うん）などに、後者を非語彙的（え、ええ）、語彙的形式として内容計算（ええと、ううんと）、形式計算（あの一）、その（一）、この（一））、評価（ま（あ）、なんというか、なんか、やっぱり）とに分類している。

山根（2002）では、留守番電話、講演、対話の談話に現れるフィラーの機能に修正・換言・埋め込み、引用示唆、整調、次の発話への引き込み、発話の方向性指示、聞き手への配慮があるとし、対話においては談話の開始部に「エー」や「ハイ」、発話の冒頭には「ア」「アノ（一）」「マ（一）」が多く、聞き手の相づちの後には「アノ（一）」「マ（一）」が多いという。さらに対話におけるフィラーには、①二人の話し手の心的関係を円滑に保つ、②発話境界を示すという2つの大きな役割があるため、この2つを兼ね備える「アノ（一）」「マ（一）」の頻度が高く、「エー」や「エート」は心的関係を円滑に保つ役割が希薄なため頻度が低いと指摘する。

中島悦子（2011）では、フィラーには大きくの機能が5つあると述べている。1つめは、発話境界の明示発話の切り出し、話し手の発話権の推持、前の発話の補正の機能である。2つめは、発話中のポーズ（間）を埋めるためにフィラーでその間をつなぎ、次の発話の展開を整える間つなぎ語としての機能である。3つめは、話し手の心的態度の表出の機能である。4つめは、言いよどみの機能である。5つめは、発話開始と発話終了を表す機能である。

本章で観察するフィラーの機能については、小出（1983）の「言いよどみ」の機能、田窪・金水（1997）の「驚き」「発言・思い出し」「迷い」「評価」の機能、中島悦子（2011）の「言いよどみ」「発話開始と発話終了を表す」の機能を共通点でまとめ、次のようなフィラーの機能に分けられた。

- A、言いよどみ 「あの一」、「えーと」、「あー」、「えー」
- B、驚き 「えっ」、「え」、「へー」、「あれ」
- C、発見・思い出し 「あ」、「あっ」
- D、評価 「まあ」、「なんか」、「やっぱり」
- E、迷い「んー（ふうん、うーん）」

F、発話開始と発話終了を表す機能「ハイ」、「ええ」

### 3. 調査の概要

本研究では、日本在住の日本語を勉強しているラオス人（筆者）とラオスで日本語を勉強しているラオス人のスカイプを使った会話を録音し、調査した。主な調査対象は、ラオス在住の日本語学習者である。

ラオス人同士で調査を行った理由は、ラオスで日本語を勉強している調査協力者が、初対面の日本語話者と会話すれば、上手く話せなくなる可能性があるためである。

#### 3. 1 調査協力者：

ラオス人同士：2人（男性：0、女性：2）

	性別	学年	学歴	日本語レベル	滞日歴
<b>協力者1</b> インタビュー： 6分27秒 ロールプレイ： 6分08秒	女	3年生	大学で日本語専攻	N3	2015年にホームステイプログラムに参加（20日間）。また、2016年に日本歴史の勉強というプログラムに参加。（1週間）
<b>協力者2</b> インタビュー： 6分21秒 ロールプレイ： 7分18秒	女	3年生	大学で日本語専攻	N3	短期日本語研修というプログラムに参加（2週間）
<b>筆者</b>	男	4年生	大学で日本語専攻	N2	2014年に関東地方の大学に留学（10か月間）。また、2016年に九州地方の大学に留学（現在2017年8月まで）

#### 3. 2 インタビュー内容：

インタビュー内容は、「日本語の勉強」に関する話にした。主な質問は、以下の順で行った。

- 簡単な自己紹介
- 今までの日本語学習歴
- 得意な科目・苦手な科目

- 上達するために勉強する方法
- 卒業後（将来日本語を役に立てるか）

目標とした時間は10分だったが、話すスピードや話が止まってしまうことがあって目標である10分に達しなかった。

### 3. 3 ロールプレイの内容：

ラオス学習者は、インタビューで出てきたフィラー以外、他のフィラーも使うかどうかを知るために、ロールプレイを行った。次のようなトピックで行うことにした。

- 友達を今週の土曜日に家に遊びに来るように誘う（誘う人は協力者）
- 知らない人にタートルアン（ラオスにある場所）までの道を教える（教える人は協力者）
- 先生にレポートの提出期間を延長してもらうお願い（学生は協力者）

### 3. 4 文字化

録音したインタビューおよび、ロールプレイはすべて文字化した。文字化に際しては、日高（2009）「ロールプレイ会話データベース」のルールに従った。

## 4. 調査結果

インタビューやロールプレイで調査協力者が使ったフィラーを数え、機能を分類した。分析した結果は以下の通りである。

### 4. 1 インタビュー

インタビューにでてきたフィラーは、「あ」「あー」「あのう類」「えっ」「えー」「えーと類」「うーん」「なんか」だった。多数使われたフィラーとして、2人とも「あのう類」が一番使った。次に、「あー」「えーと類」も少なくなかった。

	フィラーの種類	数	機能/数
協力者1	あ	4	C/4
	あー	3	A/3
	あのう類	9	A/9
	えーと類	2	A/2
	えっ	1	B/1
協力者2	あのう類	18	A/12
			D/6
	あー	3	A/1
			E/1
			C/1
	あ	1	C/1
	えーと類	2	A/2
	えー	1	A/1
うーん	1	E/1	
なんか	1	D/1	

表1：インタビューで使われたフィラーとその機能

#### 4. 2 ロールプレイ

表2は、ロールプレイにおいて、調査協力者が使ったフィルターとその機能の一覧である。ロールプレイで出てきたフィルターは、「あ」「あー」「あのう類」「あれ」「へー」「なんか」であった。その中で、一番使われていたのは「あのう類」であり、協力者1が使った回数が11回に対し、協力者2が17回であった。特に、協力者2の「先生のお願い」で使ったフィルターでは、「あのう類」だけで11回であった。

ロールプレイのフィルターは、インタビューのフィルターとほぼ同じフィルターが使われていたが、ロールプレイのフィルターでは、「あれ」「へー」が一個ずつ使われていた。機能は、それぞれ評価と驚きであった。談話の目的を変えることによって、インタビューでは使われなかったフィルターも出てきたが、異なる3つの場面でロールプレイを行っても2つのフィルターしか増えなかった。それゆえ、これ以上、ロールプレイの場面を増やしても、新たなフィルターが出現するとは考えられない。

	ロールプレイの場面	フィルターの種類	数	機能/数
協力者1	友達を誘う	あのう類	3	A/3
		なんか	1	A/1
		あ	1	C/1
	道を教える	あのう類	3	A/3
		あ	1	C/1
		あれ	1	B/1
	先生へのお願い	あのう	5	A/5
あ		1	C/1	
協力者2	友達を誘う	あのう類	3	A/3
		へー	1	B/1
	道を教える	あのう類	3	A/3
		あー	2	A/2
	先生へのお願い	あのう類	11	A/1 1

表2：ラオス人同士のロールプレイで使われたフィルターとその機能（インタビューで使われたフィルターと比較するため、調査協力者の発話のみ数えた）

表3-1は、ロールプレイの相手である筆者が使ったフィルターも含めたフィルターの数とその機能である。フィルターの種類では、「まあ」が増えた。使用されたフィルターの回数は、当然のことながら多くなったが、種類、機能ともに、大きな変化はない。

	ロールプレイの場面	フィルターの種類	数	機能/数
協力者1	友達を誘う	あのう類	3	A/3
		なんか	1	A/1
		あ	1	C/1
	道を教える	あのう類	3	A/3
		あ	1	C/1

		あれ	1	B/1
	先生へのお願い	あのう	5	A/5
		あ	1	C/1
筆者	友達を誘う	えーと類	1	D/1
		うーん	2	E/1
	道を教える	あー	3	A/1 D/2
		え	1	B/1
	先生へのお願い	0	0	0
協力者2	友達を誘う	あのう類	3	A/3
		へー	1	B/1
	道を教える	あのう	3	A/3
		あー	2	A/2
先生へのお願い	あのう類	11	A/11	
筆者	友達を誘う	あ	2	C/2
		あー	1	A/1
		え	1	B/1
		へー	2	B/1
	道を教える	あー	2	A/2
	先生へのお願い	まあ	1	D/1

表3-1：ラオス人同士のロールプレイで使われたフィラーとその機能（調査協力者の発話のみ数えた表と比較するため、筆者が使ったフィラーを含めた）

	フィラーの種類	数	機能/数
ラオス人同士	あのう類	28	A/28
	なんか	1	A/1
	あ	5	C/5
	あれ	1	B/1
	えーと類	1	D/1
	うーん	2	E/1
	あー	8	A/6 D/2
	え	2	B/2
	へー	3	B/3
	まあ	1	D/1

表3-2：ラオス人同士のロールプレイで使われたフィラーとその機能

	ラオス人同士
A（言いよどみ）	35
B（驚き）	6
C（発見・思い出し）	5

D (評価)	4
E (迷い)	1
F (発話開始と発話終了)	0

表3-3：ラオス人同士のロールプレイで使われたファイラーの機能のまとめ

表3-2は、表3-1をまとめたものである。『ロールプレイ会話データベース-誘いのロールプレイ会話-友人同士・女2』に出てきた日本人同士のロールプレイと比較するために作成した。『ロールプレイ会話データベース』には、ロールプレイの場面にかかった時間は示されていない。

	ファイラーの種類	数	機能
日本人同士	あー	1	B/1
	えー	4	D/4
	い	1	A/1
	でい	1	A/1
	えっ	1	B/1
	あの一類	3	A/3
	さー	1	D/1
	あのね	2	F/2
	えーと類	1	A/1
	さ	1	A/1
	ほら	4	C/4
	あれ	9	C/9
	あっ	2	B/2
	え	1	D/1
	ま	1	D/1
へー	1	B/1	

表4-1：日本人同士のロールプレイで使われたファイラーとその機能

	日本人同士
A (言いよどみ)	7
B (驚き)	5
C (発見・思い出)	13
D (評価)	7
E (迷い)	0
F (発話開始と発話終了)	2

表4-2：日本人同士のロールプレイで使われたファイラーとの機能のまとめ

表3-2、表4-1から見ると、日本人同士で使われたファイラーでは、ラオス人同士のロールプレイのファイラーより5種類多かった。それらは、「い」「でい」「さー」「さ」「ほら」であった。



表3-3、表4-2から機能を分析したところ、ラオス人同士のフィラーの機能では、A（言いよどみ）が35回、B（驚き）が6回、C（発見・思い出し）が5回、D（評価）が4回、E（迷い）が1回であり、F（発話開始と発話終了）全くなかった。それに対し、日本人同士のフィラーの機能では、A（言いよどみ）が7回、B（驚き）が5回、C（発見・思い出し）が13回、D（評価）が7回、F（発話開始と発話終了）が2回あったが、E（迷い）はなかった。

## 5. 考察

ラオス人同士、日本人同士のフィラーの使用を比べると、ラオス人同士、日本人同士ともA（言いよどみ）に様々な種類があった。また、使う回数を見れば、ラオス人同士は「あのう」「あー」などというA（言いよどみ）が多くあった。それに対し、日本人同士は「あのー類」のA（言いよどみ）、「あれ」というC（発見・思い出し）が多かった。ただし、ここで使われた「あれ」は連続発話（あれあれあれあれ）を1回ずつ数えたものである。しかしながら、ラオス人のフィラーの使用では、言いよどみが全体のほぼ70%を占めており、その使用率の高さは群を抜いている。日本人同士のフィラーの使用と比較した場合、その特徴は際立っている。ラオス人は主に言いよどみとしてフィラーを使っていると言えるだろう。ここから、ラオス人日本語学習者は、フィラーを多く使っているが、その機能としては、言いよどみに限定され、それ以外のフィラーの機能の使用は少ないと言えるのではないかと。

また、ラオス人学習者のフィラーの使い方には、フィラーの種類がかなり少ないという特徴があった。特に、「あのー類」「あー」というフィラーが繰り返して使われた。例えば、インタビューで協力者2が使ったフィラーの中には、「あのう」が18回、「あー」が3回あった。それはなぜだろう。

協力者が在籍している学校のカリキュラムを調べたところ、会話を学べる教科書が三冊程度使われていた。『みんなの日本語』、『会話に挑戦！日本語ロールプレイ』、『文化中級日本語I』である。1年・2年で使われた教科書では、出てきたフィラーが少なく、主に出現したのは、「あのう」「えーと」というフィラーがあったらしい。3年生用に使われた教科書には、フィラーが多くなってきたが、それは文法と共通して会話を学ぶ教科書だったからだと考えられる。また、授業中に「あのう」がフィラーだということ、「このフィラーはこの場面を使う」などの説明もなかったようだ。このことは、ラオス人日本語学習者が使ったフィラーが少なく、同じフィラーを繰り返す原因の一つとなっているのではないかと思う。

## 6. まとめ

本研究では、ラオス人日本語学習者が使っているフィラーの機能、種類ともにまだ少なく、教科書に出てきたフィラーだけを繰り返して使っているということが分かった。それに対し、ラオス人日本語学習者が多くのフィラーを使えるように、1年・2年の会話に特化した科目には多くの種類のフィラーが入っている教科書を使ってほしい。また、授業中にできるだけフィラーも取り入れればよいと思う。そうすれば、ラオス人の日本語学習者は上手くフィラーを使えるようになると同時に、会話のし方も自然に聞こえるようになるのではないだろうか。

今回の研究では、研究方法として日本在住のラオス人とラオスで日本語を勉強しているラオス人のスカイプを使った会話を録音し、調査した。それで、分かったことの範囲は広くない。ラオス人日本語学習者のフィラーの使い方をもっと明らかにするためには、もっと対象者を増や

し、ラオス人同士が会話する場面を日本人と会話する場面と対照する必要があるだろう。そして、出てくるフィラーはどんな違いがあるか、調査することを今後の課題としたい。

参考文献：

中島悦子（2011）『自然談話の文法－疑問表現・応答し・あいづち・フィラー・無助詞－』おうふう

定延利之（2005）『ささやく恋人、りきむレポーター』岩波書店

定延利之（2013）雑誌『日本語学』2013年4月臨時増刊号 明治書院

日高水穂（2009）『ロールプレイ会話データベース－誘いのロールプレイ会話－友人同士・女2』<http://hougen.sakura.ne.jp/hidaka/kaiwa/sasoi/fb02.html>